

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Impact of dehydration on endovascular treatment in patients with acute ischemic stroke due to large vessel occlusion

(大血管閉塞による急性期虚血性脳卒中患者における血管内治療に対する脱水の影響)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻

環境病態制御系

臨床研究学 (指導教授 森本 剛)

氏 名

井上 靖章

本研究は、大血管閉塞 (large vessel occlusion: LVO) による急性期虚血性脳卒中患者における脱水の頻度および転帰への影響を明らかにすることを目的としたものである。血管内治療 (endovascular treatment: EVT) は LVO に対する標準的治療法として広く行われているが、脱水の存在がその治療効果や予後にどのような影響を及ぼすかは十分に検証されていない。

本研究では、日本国内 46 の脳卒中センターが参加した RESCUE-Japan Registry 2 に登録された 2,408 例の LVO 患者を対象に、post hoc 解析を行った。脱水は、性別ごとに設定した血中尿素窒素／クレアチニン比 (BUN/Cr) を指標として定義した (男性 25 以上、女性 31.25 以上)。主要評価項目は発症 90 日後の modified Rankin Scale (mRS) 0-2 とし、副次評価項目として mRS 0-1、NIHSS スコアが発症 72 時間後に 8 点以上改善を設定した。また、安全性評価項目として、死亡率、すべての頭蓋内出血 (ICH)、症候性 ICH を検討した。

解析対象となった 2,364 例のうち、脱水は 17.0% で認めた。脱水群は非脱水群に比して高齢で、発症前 mRS が低く、心疾患の既往が多く、入院時 NIHSS スコアが高値であった。EVT 施行群における発症 90 日後 mRS 0-2 達成の調整オッズ比は、脱水群で 2.25 (95% 信頼区間: 1.19-4.27)、非脱水群で 1.94 (95% 信頼区間: 1.48-2.54) であり、EVT の効果に対する脱水の交互作用は有意ではなかった (interaction $p = 0.78$)。非脱水群において EVT 施行後はすべての ICH 発生の頻度は高かったが、その他の副次および安全性評価項目においては主要評価項目と同等の結果であった。

本研究の結果では、LVO による急性虚血性脳卒中患者において脱水は比較的高頻度に認められ、全体的に予後不良と関連していた。しかし、脱水の有無は EVT の有効性に有意な影響を及ぼさず、EVT は脱水例においても同様に有効である可能性が示唆された。